



災害における無人偵察機の活用



令和4年6月24日

第14旅団



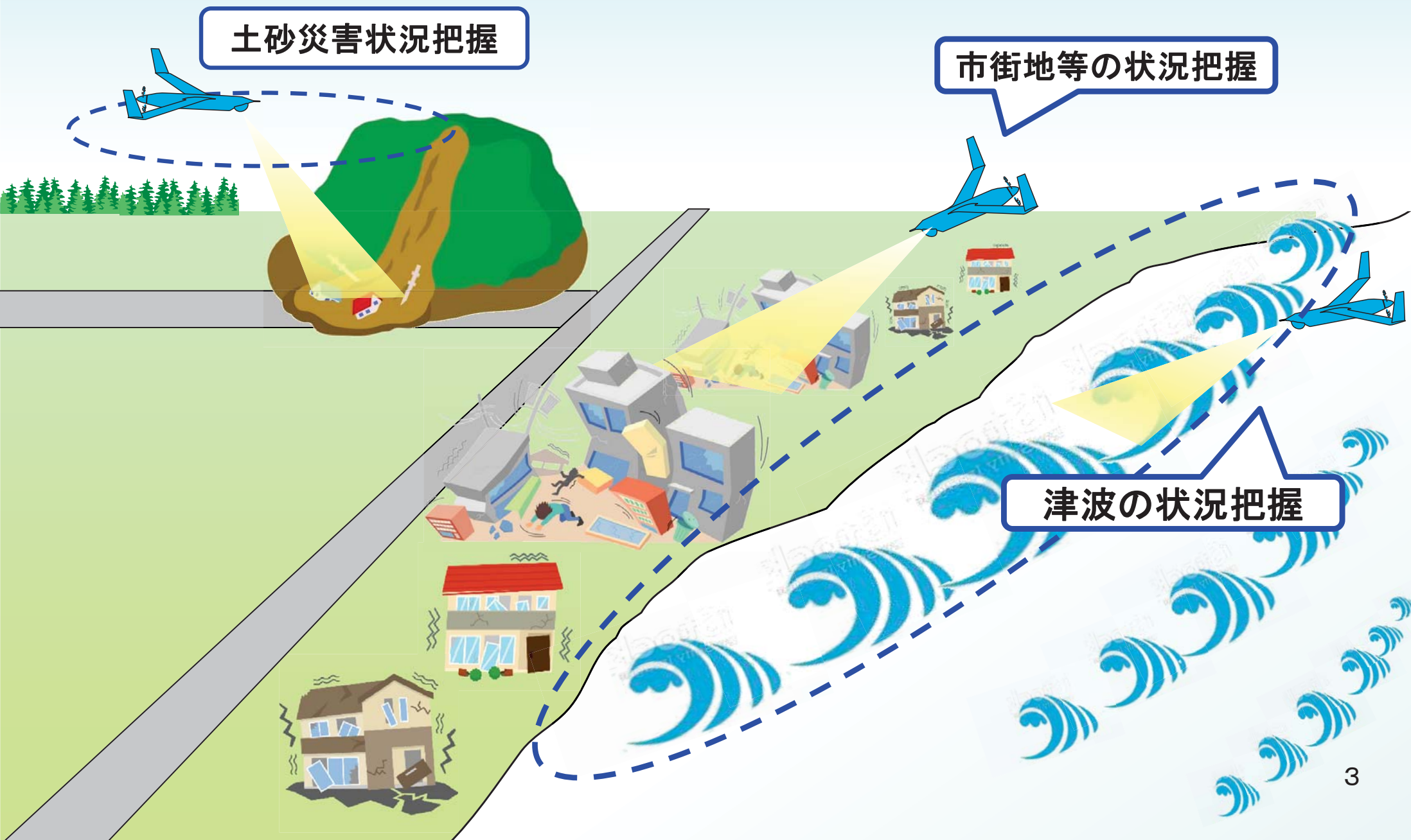
- 1 災害における運用イメージ
- 2 無人偵察機の概要
- 6 無人偵察機の運用基盤整備について

災害における運用イメージ

土砂災害状況把握

市街地等の状況把握

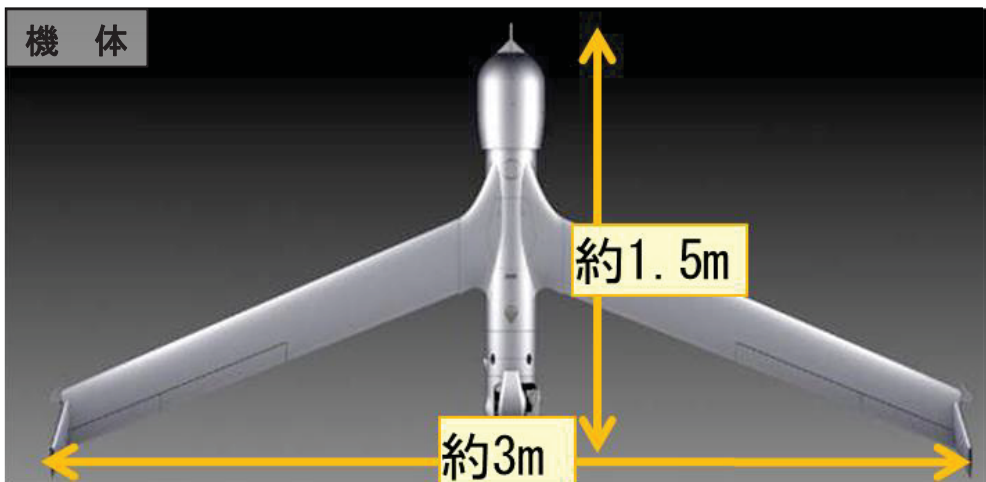
津波の状況把握





無人偵察機(スキャンイーグル2 (S E 2))の概要 (1 / 2)

機 体



特 徴

- 製造：ボーイングインシンツ社（米国）
- 導入国：米国、豪州、伊国
- 2種類の搭載カメラ（可視・赤外）により昼夜間の撮影が可能
- 事前にプログラムした経路を飛行
- 状況に応じて飛行間に新たな飛行経路の作成が可能

部隊運用の一例

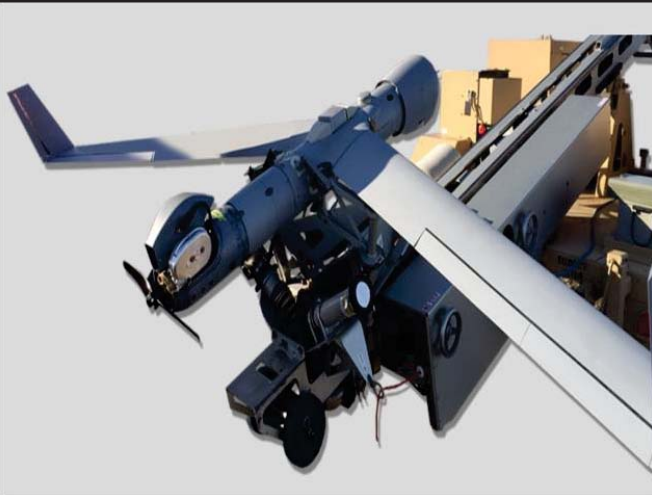


- 比較的長時間の偵察飛行が可能であり、夜間の効果的な偵察が可能
- 飛行プログラムによる計画飛行であるものの、飛行間に計画を修正することにより、随時偵察地域の変更が可能
- 展開には約100m四方の平坦かつ開豁した地積が必要



無人偵察機（S E 2）の概要（2／2）

スキャンイーグル



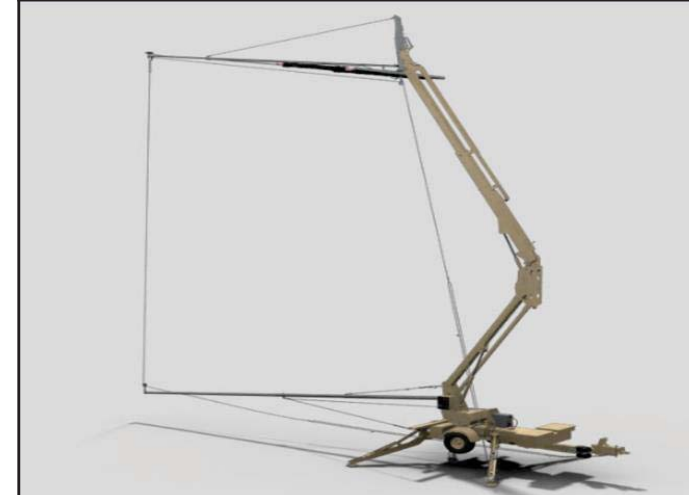
寸 法	翼幅:3.11m 長さ:1.56m
重 量	26.5kg
備 考	光学又は赤外カメラ

発射装置



寸 法 (展開時)	高さ:2.54m 長さ:7.09m 幅:2.21m
重 量	1.905kg
燃 料	軽 油
備 考	

回収装置



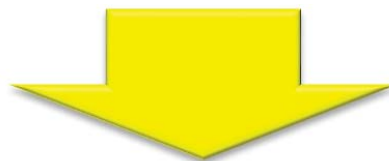
寸 法 (展開時)	高さ:17.7m 長さ:8.7m 幅:5.3m
重 量	2,041kg
燃 料	軽 油
備 考	



無人偵察機の運用基盤整備について

● 共有したい問題認識

平素の四国内生地（防衛省の管理地外）における飛行が未認可の現状



南海トラフ等、激甚災害に備え地上からアクセスできない地域
（孤立予想地域）等への展開訓練が実施できる環境が必要